



よいことの
ために
手を取りあおう

会報

WEEKLY REPORT

2025-26 R.I.会長

フランチェスコ・アレツツォ
第2500地区第6分区帯広北ロータリークラブ

会長／荒木 樹

副会長／一宮 綾子

幹事／齋藤 政樹

[四つのテスト] 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3179回 例会報告

2025.10.3

●例会日／金曜日〈12:30～13:30〉

●例会場／ホテル日航ノースランド帯広

●事務局／帯広市西3条南9丁目23 帯広経済センタービル東館3F

TEL 0155-25-7347

■点 鐘 荒木 樹 会長

■開会宣言 及川 悟 SAA

■ロータリーソング（四つのテスト）

■ゲスト紹介

独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道
チャム祐子 様

■ビジター紹介

RI2580地区パストガバナー 東京東江戸川RC
島村 文男 様

■10月誕生祝 神田 京介 親睦家族委員長

山本 淳 会員 S 27. 10. 18

松原 光一 〃 S 35. 10. 22

前川 学 〃 S 45. 10. 19

火ノ川好信 〃 S 48. 10. 17

阿部 直之 〃 (恵 様) 10. 19

高橋 学 〃 (智 保様) 10. 24

来海 有起 〃 (幸 子様) 10. 30

及川 悟 〃 (リ カ様) 10. 30

■バースデーソング

■乾 杯

■会 食

■会長挨拶 荒木 樹 会長



・月間テーマ：

○ 7月：母子の健康

○ 8月：会員増強・新クラブ結成推進

○ 9月：基本的教育と識字率向上、日本独自「ロータリーの友月間」

○ 10月：地域社会の経済発展、日本独自「米山月間」

・米山月間：

○ 当クラブ米山奨学生・アマデウスさんの卓話予定（今月）

・地域経済発展：

○ 旧藤丸百貨店の解体工事開始は「時代の終わりと新たな出発」。フードバレーマラ

ソンのスタート地点として機能

○ 社会奉仕として「こいといの道の駅の海岸
周辺の清掃活動」を計画（詳細案内予
定）

・国際大会開催予定：

○ 2026年6月13-17日：台湾

○ 2027年：ドバイ

・登録料（段階的値上げ）：

○ 早期登録（12/15まで）：475ドル

○ 12/16以降：575ドル

○ 来年4月以降：675ドル

・参加推奨：

○ クラブ想定スケジュール：金曜出発、火
曜帰国（業務影響最小化）。会長は参加
表明

・グローバル補助金事業

（モンゴル遠隔医療機器寄贈）

・事業概要：

○ モンゴルのメンタルヘルス遠隔医療機器
寄贈計画。詳細は後ほど細川会員から説
明予定

・資金枠（暫定）：

○ 地区グローバル補助金：上限1万ドル

○ 当クラブ負担：1,050ドル

・パートナー：

○ モンゴル側クラブ：イク・ウルゴ・ロー
タリークラブ（会員15名、女性4名、日本
人・台湾人会員在籍。例会は主に英語）

・関連参加：

○ 地区事業「こいといの道の駅 海岸清
掃」：今週日曜（明後日）実施。当クラ
ブから会長・市宮副会長・齋藤幹事の3名
参加

■会務報告

齋藤 政樹 幹事

・休会予定：

○ 10/24（金）：地区大会1日目のため休会



- o 10/31 (金) : 休会
- ・地区大会 (RI第2500地区、釧路) : 10/24 (金) ~ 10/26 (日)。申し込み者は参加協力依頼

・RLI第5期 (研修案内)

- o Part 1 : 2025/11/16 (日)
- o Part 2 : 2026/ 1/18 (日)
- o Part 3 : 2026/ 3/22 (日)
- o 卒後コース : 6/7 (現地集合)
- o 次年度会長・幹事以外も受講推奨。詳細は幹事へ連絡

・帯広美術館「写真の時代」:

- o 割引チケット5名分。希望者は幹事へ連絡

■委員会報告

細川 吉博 会員



- ・ (国際奉仕・ロータリーの意義)
- ・ロータリーの本質: 例会は「自己研鑽の場」。親睦 (家族含む) も重要だが、単なる昼食の場ではない

・事業領域の例

- o 地区補助金活用イベント (スポーツ大会、物品寄贈等)
- o 青少年関連 (ローターアクト、インターアクト、青少年交換)
- o 職業研修 (VTT: 歯科分野の海外連携、モンゴルからの研修受入など)
- o ポリオ根絶への取り組み
- o 社会奉仕・国際奉仕の両輪

・国際奉仕の価値:

- o 少額拠出 (例: 10~11万円) でもWF (ワールドファンド) 活用で100万円規模の支援が可能
- o 事例: タイの市有ロータリーへ医療機器寄贈 (贈呈式参加)。前年度はモンゴル関連寄贈も実施

・推奨事項:

- o 地区大会・国際大会への参加で意義の確認と友情の醸成

モンゴルとのグローバル補助金事業の是非はクラブで検討。ただしロータリアンとして国際奉仕を真剣に考える姿勢を提唱

■ニコニコボックスの発表

一宮 綾子 副会長



及川 悟 会員	斎藤 政樹 会員
曾我 浩昌 会員	高橋 学 会員
田中 正一 会員	神田 京介 会員
長谷川道正 会員	中村 孝志 会員

渡辺 紘生 会員

東京東江戸川RC 島村 文男 様

■プログラム

国際奉仕委員会



【国際協力の現場から】

独立行政法人国際協力機構

JICA 北海道 チャム祐子 様

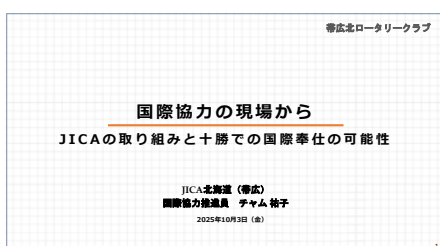
・登壇者略歴

- ・帯広出身。高校3年時に米国へ1年留学
- ・JICA海外協力隊 (アフリカ・セネガル) 派遣経験 (短期7ヶ月、長期2年)
- ・アフリカ布の雑貨販売を個人活動として実施
- ・現地での縁から結婚し、現在の苗字は「チャン」
- ・帰国後: 札幌の通信制高校教務、市内小学校など教育現場勤務
- ・現職: JICA業務 (外国人材受け入れ支援・多文化共生) を2023年3月に開始、もうすぐ3年
- ・JICAの位置付け・地域連携方針
 - ・ODA実施機関。移民促進団体ではない
 - ・帯広センターは来年で設置30年。事業: 技術協力、民間連携、市民参加協力
- ・目的:
 - o 開発途上国の経済発展への貢献
 - o 日本国内地域の活性化への貢献
- ・方針:
 - o 外国人労働者増加 (約10年の潮流) を踏まえ、安心・安全な共生社会を目指す
 - o 挨拶・会話の積み重ねで初対面の距離を縮めるプロセスを重視
 - o 十勝の外国籍住民の受け入れと支え合いを促進
- ・海外協力隊 (ボランティア)
 - ・応募資格: 満20歳以上、応募時69歳まで
 - ・派遣: 途上国へ。募集は年2回 (現在「秋募集」期間)
- ・身分・費用:
 - o ボランティア形態。現地滞在費・居住費はJICA支給 (家賃自己負担不要)
 - o 生活費は現地口座へ振込。過去の国内積立金制度は変更の可能性あり (最新要確認)
- ・関連イベント: 明日、中市で協力隊イベント
 - o 世界のパン、セネガル×パン企画 (ロマンスベーカリー協力)、元隊員監修パン販売
- ・セネガル派遣体験 (文化・教育・食)
- ・地理: アフリカ西端。日本からフランス/エチオピア経由で約2日。首都から車・バスで約4時間の海沿い都市「フンジュン」が拠点



- ・ミッション：
 - 短期（7ヶ月）：村の陶器生産者（高齢女性）の収入向上（観光客向け商品開発）
 - 長期（2年）：体育の普及（小学校巡回、担任教員への体育授業指導）
- ・教育現場の課題：
 - カリキュラムに体育時間はあるが未実施が多い
 - 授業環境不備（一般通行路やバイクが走る場所で授業）で教員の負担が高い
 - 教員自身の体育授業経験不足。教員養成校で実技指導を実施
- ・文化・食の共通点：
 - 主食は米。家族で大皿を囲み皆で食べる
 - 国民食「チェブジェン」（魚の煮込み入り炊き込みご飯）はしょっぱ辛い味
 - 暑い気候で食べ物は辛く、飲み物は非常に甘い傾向
 - おもてなし「テランカ」は日本の「おもてなし」と共通。近所の「カイアン（おいでよ）」で「アンニュ（お昼）」に誘い食事を分け合う
- ・十勝管内の多文化共生・統計
 - ・人口推移（過去10年）：総人口は減少、外国人人口は増加（490人→1,274人）
 - ・最新在留外国人統計（2024年12月資料）：
 - 十勝管内：3,995名
 - 帯広市：約1,500名（全体の約半数未満）
 - 受け入れが多い地域：畜産・牧場のある町に集中
 - ・国籍構成：ベトナムが最多、次いでインドネシア・ミャンマー増加、ネパールも増加
 - ・在留資格構成：特定技能1号・2号、技能実習が64%（就労目的が大半）
 - ・言語：英語圏出身は少数。共通言語として日本語が有効。統計上、90%以上が日本語での会話が可能（程度差あり）
- ・JICA基金活用事業（十勝・2023～2024）
 - ・対象団体：音更町「日本語サポート北海道」
 - ・2023年度：
 - 地域文化交流会（交流機会の創出）

- 日本語教室・オンライン日本語教室（言語支援）
- ・2024年度：
 - 防災のまちさんぽ（帯広・音更・美幌町・千歳の4カ所）で災害リスク理解・備えの浸透
 - エマージェンシーボトルの配布企画（平時からの備えを周知）
- ・2024年の3本柱と出展予定
 - ・柱1：地域イベントでの多文化共生アクティビティ
 - 新得町・森の交流館（年2回の国際交流イベント）共同開催
 - 帯広菊まつり・氷まつりで出展（在住外国人と日本人の交流機会創出）
 - ・柱2：自治体職員との連携強化
 - 多文化共生情報の伝達・共有体制を拡大、部署横断の連携促進
 - ・柱3：外国籍住民向けリーフレット作成・配布
 - 「多文化共生リーフレット」を十勝管内19市町村分作成（担当窓口、JICA Instagram、地域イベント情報など）
- ・今年も帯広菊まつりへ出展（会場：大集会室）
- ・共生推進のメッセージ・交流事例
 - ・メッセージ：
 - 「英語が話せないから苦手」と感じる必要はない。日本語での働きかけが有効
 - 声かけは関わりを持とうとする前向きな行為。安心して暮らせる地域づくりと経済衰退防止に寄与
 - ・交流事例：
 - 帯広ロータリークラブ主催のフットサル親睦会にJICA研修員が協力。今後も協働の機会があれば支援可能



目次	
01	自己紹介
02	JICAについて
03	海外協力隊での体験談
04	帰国後の活動と現在の業務
05	十勝における現状と課題
06	質疑応答

チャム 祐子 ちゃむ ゆうこ

- 出身
帯広市
- 趣味
アフリカ雑貨
- 好きなことば
人生一度きり
- これまでの私
高校時代、アメリカに1年間の留学
JICA海外協力隊としてセネガルでの経験



02 _ JICAについて



JICA海外協力隊（シャイカがいがいきようりょくたい）

- JICAボランティア事業は日本政府の予算により、国際協力機構（JICA）が実施。
- 開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣する

主な目的は3つ

- 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
- 異文化社会における相互理解の深化と共生
- ボランティア経験の社会還元



03 _ 海外協力隊での体験談



海外協力隊

派遣国：セネガル共和国

活動内容：

- ①陶磁器（2007年11月～2008年6月～7か月）
- ②体育（2009年9月～2011年9月～2年間）

青年海外協力隊としての活動



任地アンジュン市、近隣の村の小学校巡回担任の先生に体育の授業方法の伝達



04 _ 帰国後の活動と現在の業務

外国人材受入れ・多文化共生支援に資するJICAの取組

- 2021年の外国人労働者数は173万人（2021年4月1日現在）増加。
- その半数は開発途上国出身者。開発途上国出身者にも貢献。
- 日本の労働力不足は、2040年には約674万人の外国人労働者が必要と試算*
- 日本が「居場所」になることが緊急課題

共に生きる豊かな社会の実現へ

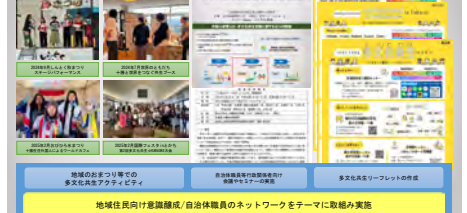
開発途上国の経済発展と日本国内の地域活性化に貢献



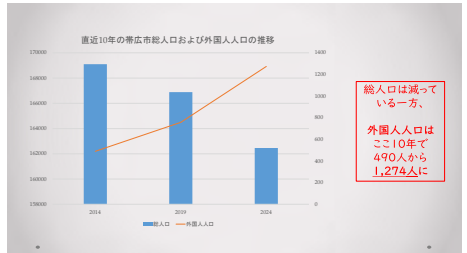
JICA基金活用事業の側面サポート



2024年実施事業



05 _ 十勝における現状と課題



十勝管内の在留外国人・・・3,995人

外国人人口比率ランキング			
人口数	外国人人口（人数）	外国人比率（%）	
紋別町	5,507人	278人	5.05%
上士幌町	4,758人	231人	4.85%
大町市	5,268人	199人	3.78%
清水町	2,120人	76人	3.58%
流山町	8,755人	312人	3.56%
士幌町	5,690人	159人	2.79%
空知町	2,879人	79人	2.74%
帯広市	160,836人	1,533人	0.95%

十勝管内 在留外国人 国籍別



十勝管内の在留外国人・・・在留資格別のうち64%が外国人材



ご清聴ありがとうございました。



■次週のプログラム予定

「ゲスト卓話又は会員卓話」

■閉会宣言

及川 悟 SAA

■点鐘

荒木 樹 会長

例会案内

〈月曜日〉広尾RC:日高信金広尾支店 〈水曜日〉帯広RC:ホテル日航ノースランド
帯広南RC:北海道ホテル 上士幌RC:川村福祉会館
〈火曜日〉芽室RC:めむろーどセミナー 音更RC:ハビオ木野
帯広東RC:ホテル日航ノースランド

■出席報告/渡辺 紘生 出席委員長

会員数	計算に用いる会員数	ホームクラブ出席数	メイクアップ	欠席	出席率
58					66.07%